

短歌（二十四）

下田 明美

宇佐美港のんびり散歩していたら

まさかの押し売り大きな伊勢えび

窓越しに確かに夕日は届いてる

一人でいれば、子供は悲しい

雑草が道の両側に生い茂る

持ち主は誰、管理をしてネ

いまはただ歩いて行くしかないのだが

トイレが遠い腰痛ありて

裏のネコ私の庭に集まりて

ご用事をしたたり昼寝をしたたり

仏壇の母にリンゴを差し上げる

父も祖母も見ているのだが

ヘルパーに桃のびん詰め頼んだら

どういう訳か、鯛のかん詰め

植木屋に庭木の剪定頼んだら

山茶花咲かない金木犀も

天国から宇佐美のパトラ見下ろせば

困っているのよ、何とかしてよ

窓越に巢雲の山を眺めれば

天城も見える恋人の道

転んでも転んでもまた転ぶ

そんなものかな私の人生

亀石の坂を登りて右側に

「みかんの花咲く丘」があるのだ

砂防ダムに流量計がつけられて

野生のワサビが生えなくなった

